

熊本県土木部事業概要2026

DEPARTMENT OF CIVIL ENGINEERING OVERVIEW 2026



県道熊本高森線4車線化(益城町)



国道389号下田南バイパス工事(天草市)

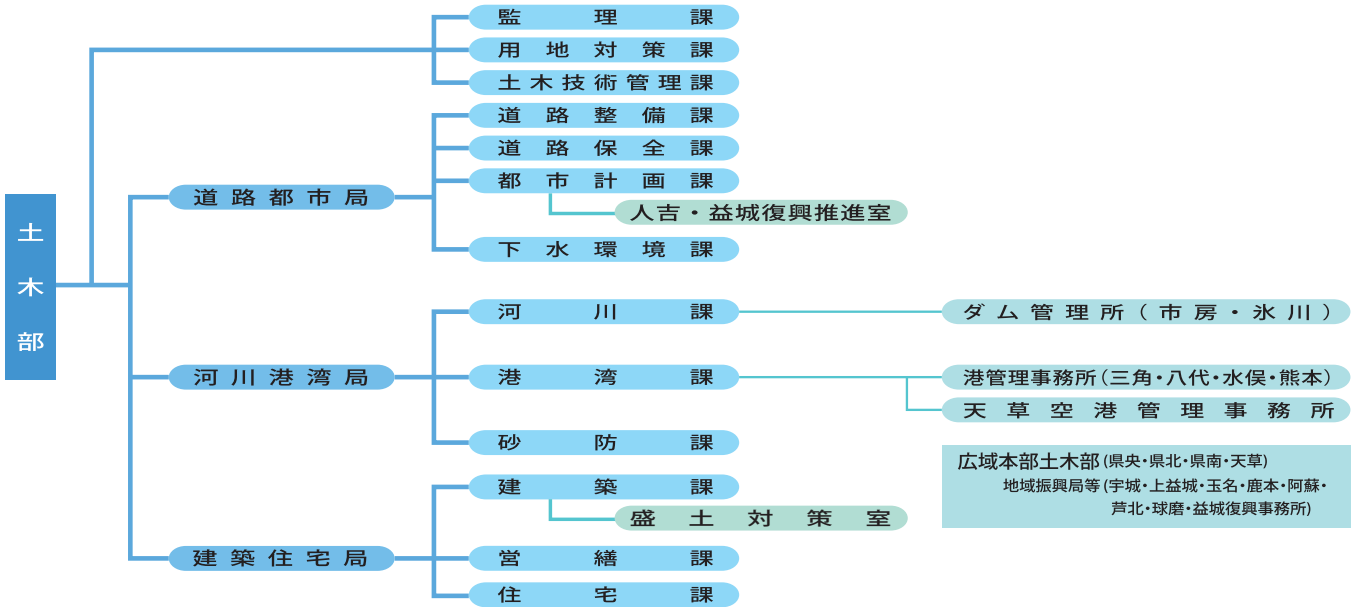


簸瀬川(えびらせがわ)砂防えん堤整備(芦北町)



熊本工業高校実習棟改修(熊本市)

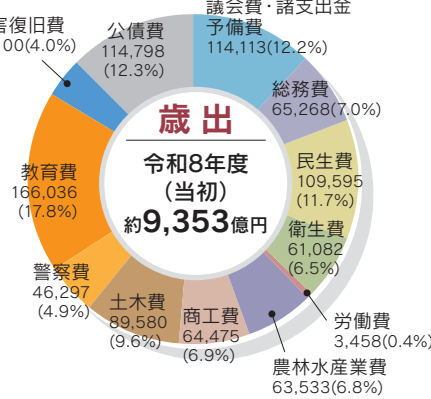
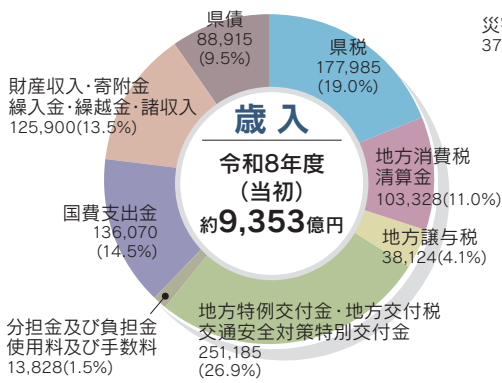
組織・機構



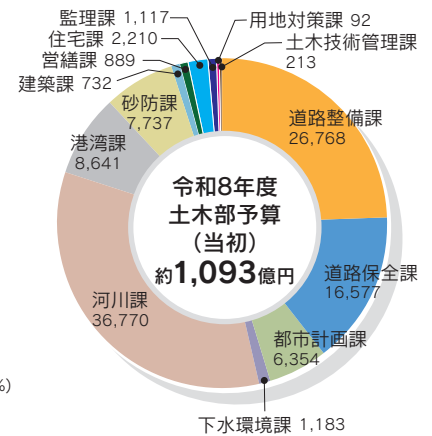
予算の概要

※単位:百万円()内は構成比
※各項目についての計数は、表示単位未満を四捨五入したもので、その内訳は、合計と一致しない場合があります。

令和8年度熊本県当初予算(一般会計)

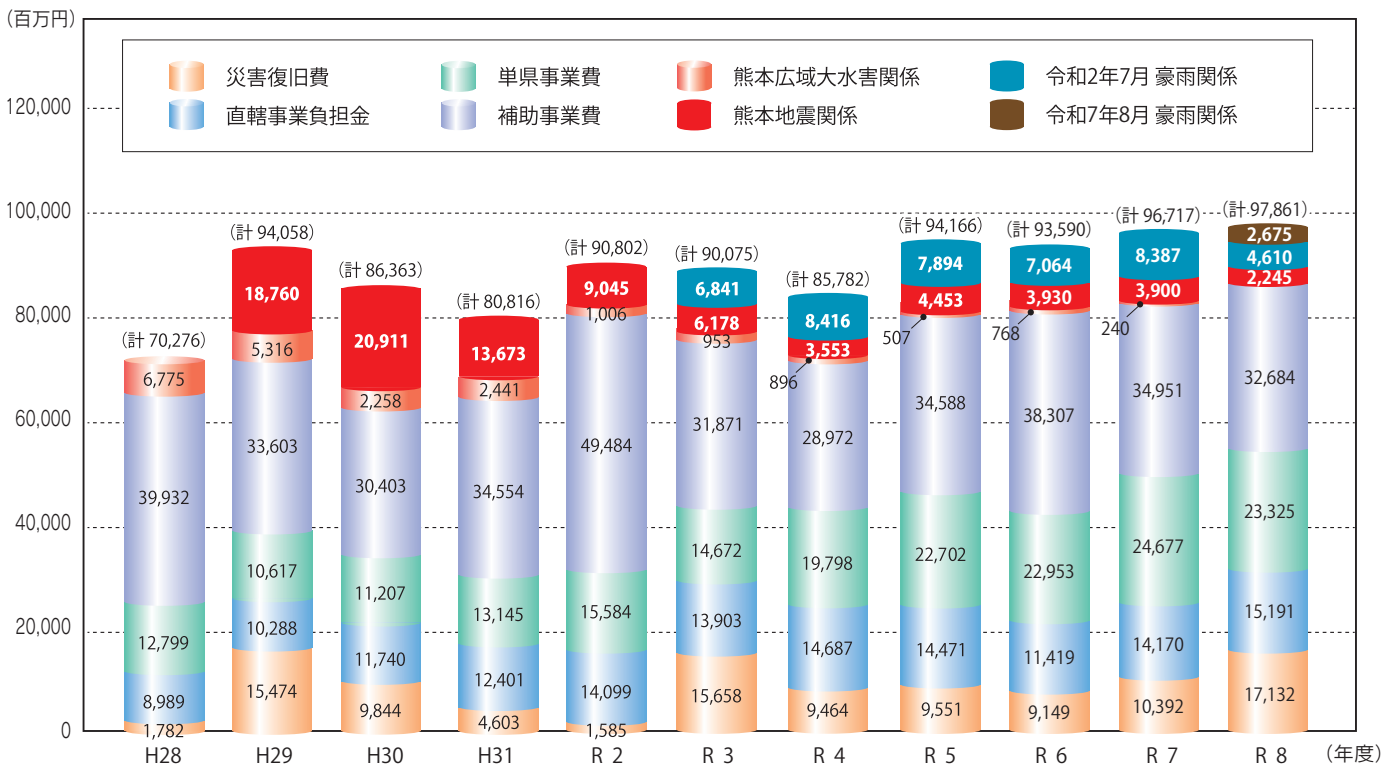


土木部各課の予算(一般会計)



土木部当初予算等の推移(一般会計・投資的経費)

※当初予算等とは、骨格予算編成時においては肉付けした予算の合計額。



土木部の施策展開の方針

「くまもと新時代共創基本方針」の4つの柱のうち、以下3つの柱に沿った取組みを土木部の施策展開の方針とする。

くまもと新時代共創基本方針 基本理念

県民みんなが安心して笑顔になり、持続的で活力あふれる
熊本の未来を共に創る
～世界に開かれた熊本、世界へ羽ばたく熊本～

1 県民の命、健康、安全・安心を守る

県民の皆様と共に対話と挑戦を続けながら、あらゆる人が安心して暮らせる熊本、また、熊本全体がやさしい人たちが溢れる未来を目指す。

2 世界に開かれた活力あふれる熊本

熊本が世界から注目を集めているこの機会を最大限に活かし、県の強みを更にステップアップさせ、様々な産業の更なる振興と県内全域における活性化につなげていく。

3 こどもたちが笑顔で育つ熊本

教育機関、行政、企業等が連携し、熊本の未来を担うことができる人材の育成に向けた取組みを推進する。

1 県民の命、健康、安全・安心を守る

1-1 災害からの創造的復興

● 令和7年8月豪雨からの復旧・復興

令和7年8月10日から11日にかけて、線状降水帯が繰り返し発生し、広範囲にわたり局所的に甚大な被害が発生しました。令和7年8月豪雨からの復旧・復興を迅速かつ着実に進めるため、令和7年12月に策定した「令和7年8月豪雨からの復旧・復興プラン」に沿って、“「県民みんなが安心して笑顔になる」熊本”の実現に向けた取組みを進めます。

◆ 公共土木施設等の早期復旧

公共土木施設等の被害については早期復旧に取り組むとともに、再度災害防止の観点から、必要な箇所における改良復旧や新たな施設の整備を行います。



◆ 浸水被害軽減に向けた取組み

令和7年8月豪雨被害の主要因の一つとなった浸水被害については、河川管理者の「土木部」や農地の浸水対策に取り組む「農林水産部」、内水対策を担う「市町村」とも連携の上、浸水被害の軽減に向けた検討会を設置し、被害要因の分析・検証、ハード・ソフト両面からの対応策を取りまとめました。今後、検討会の結果を流域治水プロジェクトへ反映させ、内水氾濫対策も含めた浸水被害の軽減に向けた取組みを進めます。

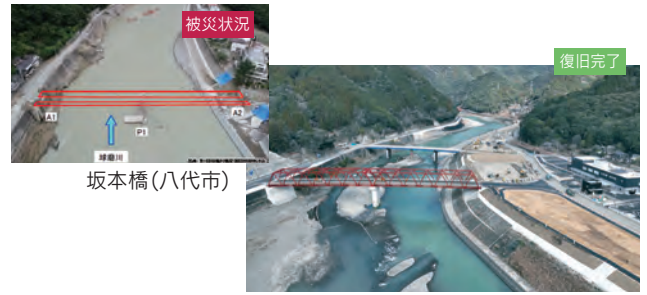


浸水被害に関する検討会

● 令和2年7月豪雨からの創造的復興

◆ 国道219号、流失した橋梁の復旧

令和2年7月豪雨で発生した公共土木施設の被害について、直轄代行（国道219号や球磨川で流失した10橋、球磨川水系の県管理河川の一部）による、国の御支援もいただきながら、早期復旧に取り組んでいます。



◆ 緑の流域治水の推進

令和2年7月豪雨の被災地をはじめとする様々な地域において、河川整備計画等に位置付けた、宅地かさ上げや河道整備などの治水対策を推進し、流域の安全・安心を確保します。また、集水域や氾濫域の関係者と連携し、流域全体で被害を軽減させる「流域治水」の取り組みを推進します。

また、都道府県では全国初の取り組みとして、万江川（山江村）では治山・砂防・河川事業が連携しながら流域全体で土砂・洪水氾濫対策を推進します。

※土砂・洪水氾濫とは：豪雨により上流域から流出した大量の土砂や流木が下流の河道で堆積し、河床上昇・河道閉塞等が引き起こされ、下流で土砂と泥水の氾濫が発生する現象。



治山・河川・砂防事業が連携した対策のイメージ

- 防災・安全交付金事業、河川等災害関連事業 など
 - ・ 球磨川水系 油谷川、吉尾川、芋川、山田川、御溝川、川辺川、田頭川 など
- 大規模特定砂防等事業

主要事業

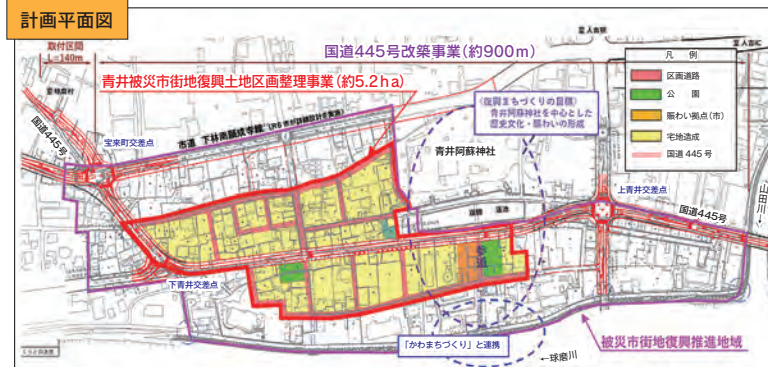
◆ すまい・コミュニティの創造

被災地域では、災害公営住宅が5市町村に282戸、被災した公民館に替わるコミュニティの場として整備を進めてきた公民館型「みんなの家」が3市村に9棟完成し、住まいと地域拠点の再建が進んでいます。

人吉市青井地区においては、「人吉市復興まちづくり計画」に基づき、緊急輸送道路である国道445号の改良、土地区画整理事業による区画道路や公園などの整備を行い、防災機能の向上及び宅地の利用増進を図ることで公共施設の整備改善及び被災市街地の復興まちづくりを支援します。



災害公営住宅坂本団地（八代市）



人吉市青井地区復興まちづくり



球磨村渡のみんなの家 落成式

◆ 災害に強い道路ネットワーク整備

五木村については「“ひかり輝く”新たな五木村振興計画」などに基づき、相良村については「未来につなげるむらづくり」の実現に向けて、「国道445号」や「県道宮原五木線」などの整備による道路ネットワークの強靱化を推進します。



<整備状況>

国道445号（九折瀬区）（五木村）



<改良概要>

県道宮原五木線（橋工区）（五木村）



<改良概要>

国道445号（相良バイパス）（相良村）

● 熊本地震からの創造的復興

◆ 益城町の復興まちづくり

市街地に甚大な被害を受けた益城町では、町の中心軸となる県道熊本高森線について、令和8年3月に4車線での全線供用を開始しました。

引き続き、町の都市拠点となる木山地区の土地区画整理事業に取り組み、創造的復興のシンボルとなるまちづくりを支援し、熊本都市圏東部地域の更なる発展を目指します。



木山交差点の完成イメージ

◆ 県道熊本高森線の4車線化



開通区間の様子(益城町)

◆ 土地区画整理事業(木山地区)



整備状況(益城町)

● 高規格道路ネットワークの整備

「すべての道は熊本に通じる」という考えのもと、物流の効率化・人流の円滑化を図るとともに、九州圏内のダブルネットワーク構築に向け、九州の横軸となる「九州中央自動車道」や「中九州横断道路」、九州南西部をつなぐ「南九州西回り自動車道」、福岡・佐賀とつなぐ「有明海沿岸道路」など、高規格道路の整備を促進します。

また、熊本都市圏と県内主要都市を90分で結ぶ「90分構想」の実現、更には、能登半島地震の被災状況を踏まえ、半島・離島からなる宇土・天草地域におけるダブルネットワークの構築に向け、熊本天草幹線道路の整備を推進します。

「九州を支える広域防災拠点構想（R4.8改定）」を踏まえ、南海トラフ巨大地震などの大規模災害発生時において、本県と近隣県相互の受援・支援を可能にする、「命の道」としての基幹道路ネットワークの整備を進めていきます。

主要
事業

- 九州中央自動車道（九州横断自動車道延岡線） ●中九州横断道路 ●南九州西回り自動車道
- 有明海沿岸道路 ●熊本天草幹線道路



有明海沿岸道路「三池港IC 連絡路」整備状況(荒尾市)



南九州西回り自動車道「芦北出水道路」境川橋(仮称)連結式(水俣市)

1-2 災害に強い県土づくり

● 防災・減災、国土強靱化の着実な推進

◆ 熊本県国土強靱化地域計画の改定

国で令和7年6月に「第1次国土強靱化実施中期計画」が策定されたこと、更に令和7年8月豪雨の経験も踏まえて、令和8年3月に「熊本県国土強靱化地域計画」を改定しました。新たな取組みとして、内水氾濫対策の推進などを盛り込み、ハード施策はもちろん、ソフト対策を含めた総合的な防災体制の整備を目指すこととしています。この計画に基づき、国土強靱化の取組みをこれまで以上に推進します。

◆老朽化した橋りょうの補修及び耐震化等

県管理道路橋の安全性・信頼性を確保するため、老朽化対策については、近接目視による定期点検を基に「点検・診断・措置・記録」のメンテナンスサイクルを確実に実施することで、計画的な補修を行います。

また、耐震対策については、災害時に重要な路線となる緊急輸送道路上にある橋りょうのうち、架設年次が古く、現行の耐震補強基準を満たさない橋りょうに対して耐震補強を実施します。

さらに、住宅の耐震対策について、市町村や関係団体と連携し、普及啓発を行うとともに、耐震診断及び改修を支援します。



老朽化した橋りょうの補修工事

主要事業

- 道路施設保全改築事業
- 単県橋りょう補修事業
- 単県橋りょう改築事業
- 住宅耐震化緊急促進事業

◆県有施設の整備・維持保全

土木部では、各施設所管課からの依頼を受け、県立高校を含む県有施設の整備、計画的な保全を行うほか、市町村の営繕工事などに対する技術的支援を行っています。県有施設の整備・改修に際しては、木造化・木質化を推進するとともに、既存施設のZEB化改修など、省エネ性能向上の取り組みを行っています。

県営住宅については、高齢者や子育て世帯のニーズを踏まえ、長寿命化計画に基づく改修工事のほか、UD改修工事、省エネ対策として照明のLED化工事などを行っています。



県消防学校本館・寄宿舎改築イメージ
(令和9年度竣工予定)

主要事業

- 県有施設整備
- 県有施設保全改修事業
- 木造設計アドバイザー普及事業
- 県営住宅ストック総合改善事業

1-3 建設産業の振興

●働き方改革・人材確保

社会基盤整備の担い手であり、「地域の守り手」である建設産業が持続・発展できるよう、週休2日制による働き方改革や、ICT活用工事等による生産性向上を推進します。また、建設産業団体や関係機関と連携して、建設産業の役割や魅力を発信し理解促進を図るとともに、高校生向けの県内建設企業説明会の実施などにより、若者をはじめ多様な人材の確保・育成に取り組めます。



建設産業関係団体からの説明会
(高校生向け建設産業ガイダンス)

●建設DXの推進

建設産業の労働力不足を補い、施工の効率化や安全性向上を図るため、ドローンなどによる3次元測量や3次元設計データなどを用いたICT建設機械による施工などの「ICT活用工事」やモバイル端末などを活用した「遠隔臨場」を推進します。さらに、ICT施工に関する研修会や見学会を開催し、受注者が積極的に取り組める環境を整備します。また、土木部が所管する施設台帳などを一元的に管理する「施設管理データベースシステム」において、県の保有するデータのオープン化を図っています。その他、総合評価落札方式による工事入札時の技術申請書の電子申請化等、建設産業の生産性向上に資する取り組みを進めています。

● 現場遠隔臨場 ●



【監督側】



【現場側】



【現場側】

主要事業

- 建設産業担い手確保・育成事業
- 公共工事の建設現場などにおけるDX事業
- 施設管理データベースシステム運用事業

2) 世界に開かれた活力あふれる熊本

2-1 半導体関連産業の集積強化

● セミコンテクノパーク周辺のインフラ整備

世界的半導体企業の進出を契機として新生シリコンアイランド九州を実現させ、その効果を日本全体に波及させるため、中九州横断道路の整備を促進します。

また、半導体関連産業の集積に伴う物流の効率化と人流の円滑化を図るため、県道大津植木線の多車線化や中九州横断道路合志インターチェンジへのアクセス道路などの整備を短期・集中的に進め、基幹となる道路ネットワークの強化に取り組みます。

さらに、セミコンテクノパーク周辺において、今後増加が見込まれる半導体関連工場の排水を処理するため、熊本セミコン特定公共下水道の整備に取り組みます。



セミコンテクノパーク周辺の道路整備状況



<整備状況>新山原水線(菊陽町)

主要
事業

- 中九州横断道路
- 県道大津植木線多車線化
- 合志インターチェンジアクセス道路
- 県道新山原水線
- 国道387号(須屋工区)
- 熊本セミコン特定公共下水道 など

● 港湾機能の強化

物流・人流の拠点として、「世界に開かれた活力あふれる熊本」「新生シリコンアイランド九州」の実現による更なる経済成長につなげるとともに、大規模災害発生時には防災の拠点として県民の命と暮らしを守るため、機能強化に向けた港湾施設の整備を進めます。

主要
事業

- 物流拠点機能向上事業
- 心頭用地造成事業
- 臨海用地造成事業
- 港湾整備事業 など



熊本港



八代港



水深の確保(浚渫状況)

2-2 熊本都市圏渋滞対策

● 渋滞解消推進本部

渋滞対策を迅速かつ強力に推進するため、令和6年6月に「渋滞解消推進本部」を設置し、短期・中期・長期の対策に関係者が一丸となって取り組んでいます。短期対策として実施している交差点改良やオフピーク通勤の推進などについては、交差点での渋滞が緩和するなど、一定の効果が表れています。今後も渋滞解消に向け、これらの短期対策に加えて、道路ネットワークの整備や公共交通の輸送力強化など、中長期的な対策にも計画的に取り組んでいきます。

主要
事業

- 熊本都市圏渋滞対策事業
- 単県交通安全(新時代・渋滞対策)事業 など
- 単県道路改築事業



令和7年度 第1回熊本県渋滞解消推進本部会議

● 「10分・20分構想」の推進

熊本都市圏の慢性的な交通渋滞解消など喫緊の課題解決のため、「熊本県新広域道路交通計画（令和3年6月策定）」において、熊本市中心部から高速道路までを約10分、阿蘇くまもと空港までを約20分で結ぶ「10分・20分構想」を掲げ、「熊本都市圏北連絡道路」「熊本都市圏南連絡道路」「熊本空港連絡道路」の3路線を新たに高規格道路に位置付けています。この3路線を早期に実現するため、国の協力をいただきながら、熊本市と連携して、計画の具体化に向けて取り組んでいます。



10分・20分構想 概略図

主要事業 ● 道路計画調査費 ● 単県道路調査費

2-3 魅力ある地域づくり

● くまもとアートポリスの取組み

専門家の知見を建築設計やまちづくりに活かす「くまもとアートポリス事業」は、プロジェクト事業を中心に、人材育成や普及啓発などを行い、若手技術者や学生をはじめ県民が広く参画する機会を設けるとともに、木造建築の推進、災害対応力の強化に繋がる地域コミュニティの形成支援、建設産業の担い手確保など、地域の活性化に資する取組みを行っています。

主要事業 ● プロジェクト事業 ● 顕彰事業（アートポリス推進賞）
● 企画・広報・人材育成事業（シンポジウム、現場見学会、こども建築塾、広報誌・SNSなどでの周知）



プロジェクト・御船町中山間地域拠点整備
(イメージ模型)



こども建築塾
(小学生向けワークショップ)



農林部局と連携したシンポジウム
(モク活2025)

● ナショナルサイクルートの指定に向けた取組み

天草地域では、風光明媚な景色を楽しみながら、誰もが安全・快適に走行できるサイクリング環境を活かし、関係市町と連携してナショナルサイクルートの指定を目指しています。



矢羽根など路面標示の設置
(走行環境整備の例)



サイクルラックの設置
(受入環境整備の例)

3 こどもたちが笑顔で育つ熊本

● 県営住宅の整備、空き家対策

子ども・若者・子育て世帯の視点に立ち、「こどもまんなか」の取組みを推進するため、県営住宅における子育て支援型住戸改修や、市町村が空き家を子育て世帯向けの賃貸住宅等に改修する場合に支援を行い、安全・安心で快適に暮らせる住環境の整備に取り組めます。その他、県営住宅では、ペットとの共生住宅の試行も始めました。

主要事業 ● 公営住宅ストック総合改善事業
● 空家等対策総合支援事業



県営住宅の子育て支援型住戸改修
(見守り可能な対面キッチン)



ペット共生住宅の試行開始

● 交通安全対策

安全・安心な道路交通環境の実現を図るため、歩道や交差点改良、無電柱化、自転車走行空間の整備に取り組みます。特に、通学路の安全対策については、歩道整備等の本格対策に加え、カラー舗装など早期に事業効果を発現する応急対策も併せて実施します。

主要事業 ● 交通安全施設整備事業 ● 自転車空間整備事業 ● 無電柱化計画推進事業
● 単県交通安全施設整備事業